

第5学年 人権学習指導案

1 教材名

ある新潟水俣病患者の訴え（生きるⅢ）－新潟水俣病差別問題から学ぶ－

2 ねらい

【高学年部の目標】

生活の中での差別的な行いや言葉遣いに気付き、真剣に問題を解決しようとする態度を育てる。



【ねらい】

新潟水俣病問題で被害者の方々が現在も差別や偏見に苦しんでいるという事実から、被害者やその家族の憤りに共感する気持ちを高め、差別や偏見を許さない態度を育てる。

3 学習の進め方

(1) 教材設定の意図

新潟水俣病問題は、私たちの暮らす新潟県において今現在も続いている人権課題のひとつである。児童の身近で起きている新潟水俣病問題を取り上げることで、より実感的に差別問題と対峙できるようにし、児童の人権感覚を高めたい。また、同和教育の原点である「差別の現実から学ぶ」ことを重視し、新潟水俣病問題の事実関係を正確に理解し、新潟水俣病差別問題に憤らせ、差別の解消に向けてどうすべきかを児童に考えさせたい。そこで、人権学習として新潟水俣病問題を扱う前に、まず、社会科で新潟水俣病問題の事実関係や被害者の心身の苦しみを正確に理解させる。そのため、人権学習と関連させた指導計画を組み、3学期で扱う公害問題を、前倒しして学習することとし、内容も新潟水俣病問題に重点を置いたものとする。知識を十分に蓄えた上で新潟水俣病問題を考えることで、公害や差別に対する憤りの気持ちをさらに強くし、自分自身を含め、誰に対しても差別を許さないという決意をさせたい。

本学級の児童は、これまでの人権学習の中で「しんじさんのノート」（仲間）、「宙に消えたありがとう」（障害者差別）、「トラブル解決博士」（仲間）、「障害とともに」（障害者差別）を扱い、学習してきた。「しんじさんのノート」や「トラブル解決博士」では児童の日常生活でありがちなトラブルから差別的な言動をとらえさせ、差別者・被差別者・第三者それぞれの立場の児童の思いを引き出した。その中で弱者（被差別者）の思いを共感的に考えることで、差別を許さないという思いを強くした。また、「宙に消えたありがとう」や「障害とともに」では、資料や実際に障害のある方のお話から障害者差別について知り、障害者の思いや願い、その生き方を学んできた。しかし、障害者差別という児童にとってあまり身近でない教材のためか、差別問題を実感的にとらえることができず、差別解消のために自分がどう行動していくかという実践化の部分では考えが深まらなかった。

これらの学習から、課題として、児童の多くは差別問題を他者的、一般的な視点でしかとらえておらず、自己を振り返って自分自身の中にある差別意識に目を向けて考えられて

いないことが挙げられる。そのため、児童の中には、他人の身体的特徴について揶揄したり、失敗や間違いをした人を軽視した態度をとったりするなどの差別的な言動が見られる。このことから、差別問題を丁寧に読み取っていき、差別意識を自分自身の内面にある問題としてとらえさせ、様々な事情を抱えた他者に対する自分の見方・考え方を見つめ直させ、差別意識や偏見をもたずに人と接していこうとする態度を育てていきたい。

(2) 展開の視点

本学習は5時間扱いとし、次のような流れで進めていく。

第1・2時では、「ある新潟水俣病患者の訴え」（生きるⅢ）を中軸とし、資料中の新潟水俣病差別問題について正確に把握する。そして、被害者は身体的な痛みを受けたと同時に社会的、精神的な多重差別による痛みを受けたことを理解させる。

第3時では、机上の学習からだけでは捉えることのできない実際の患者の心身の痛みを新潟水俣病被害者である語り部から語ってもらうことで、新潟水俣病問題に対する実感を持った理解を深める。

第4時では、最初は被害者側に立った視点から考えさせ、病気のつらさや差別による痛みなどを共感的に理解させる。次に、語り部から聞いた話から、水俣病被害者に対する差別の言葉に着目し、これまでの被害者側からだけの見方から、差別者側への視点の転換を図る。

第5時では、差別は差別する側の問題であり、差別する側が変わらなければならぬことから、水俣病被害者へ浴びせられた差別的な言葉に表れている差別意識に着目させ、差別者の言動に対する児童の考えをもたせる。そして、自分たちの日常生活の中でも、似たような差別意識があることに気づかせ、自分自身の内面にある差別意識について振り返らせる。また、このことにより、「自分は差別をしない」という自分だけの問題から、誰に対しても「差別は許さない」という意識の変革を図りたい。

4 本時と関連した指導

	単元名	学習内容	ねらい
社会	工業の発展のかけで	阿賀野川の自然と人々の暮らし (1時間)	資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」を使い、阿賀野川流域の人々のくらしから、いかに川が大切であったかを感じ、その川で起きた新潟水俣病の悲惨さを理解する。
		新潟水俣病問題の病状の理解 (1時間)	生活と結びついた大切な阿賀野川で起きた新潟水俣病問題について、その発生から現在までの経緯を、DVD（「新潟水俣病」県立環境と人間のふれあい館作成）で正しく理解する。また、生活が壊されてしまったことや体の痛みを知る。

↓

人権学習「ある新潟水俣病患者の訴え－新潟水俣病差別問題から学ぶ－」

5 指導計画（全5時間 本時5 / 5）

	学習内容	ねらい	学習活動	指導上の留意点
第1時	新潟水俣病の事実	新潟水俣病について正しく理解し、その苦しみについて教材から読み取らせる。	気づき 事実を把握する。 ・「ある新潟水俣病患者の訴え」（生きるⅢ）を読む。 学び 被害者の苦しみを知る。 ・資料から読み取れる「わたし」の苦しみに線を引く。	・事実を正しく把握するため、社会科で学習した資料で確認する。
第2時	新潟水俣病の二重の苦しみ	新潟水俣病の被害者は病気と差別の二重の苦しみを抱えていることを理解させる。	深まり 二重の苦しみを理解する。 ・被害者の苦しみを、「病気の苦しみ」と「差別の苦しみ」の2つに整理する。 実践化 学習の感想を書く。	・差別の苦しみには、ねたみや偏見など様々な形の差別があることを押さえる。
第3時	差別の現実と被害者の願い	新潟水俣病被害者である語り部から話を聞くことで、差別の現実や被害者の願いを理解させる。	学び/深まり 語り部から話を聞く。 ・「環境と人間のふれあい館」で講話を聞く。 ・新潟水俣病の差別や偏見について疑問を解決し、自分自身の考えを確認する。	・語り部
第4時	新潟水俣病問題に対する自分の考え	新潟水俣病被害者の思いに共感し、水俣病問題に対する自分の考えをもつ。	学び 被害者の気持ちに共感する。 ・語り部の話を振り返り、新潟水俣病差別について許せないことを発表する。 深まり 差別が続く原因を考える。 ・水俣病に対する差別が根強く残る原因について話し合う。	・差別者の気持ちを変えることが、差別解消のひとつの方法だということを強調する。
第5時（本時）	差別を許さないという強い思い	差別者の立場から新潟水俣病差別問題を考えることを通して、自分自身の中の差別意識に気づかせる。また、差別をしない・許さないという思いを強くさせる。	気づき/学び 差別者の気持ちを想像する。 ・被害者への誹謗、中傷の言葉から、差別者の気持ちを考える。 深まり/実践化 自分自身の差別意識に気づく。 ・日常生活を振り返り、差別的な言動をした経験を班で発表する。 ・これからの自分はどうかをワークシートに書く。	・水俣病被害者への誹謗、中傷から読み取れる差別を分かりやすくまとめる。 ・差別の解消には、差別意識を自分自身で律することが必要だと確認する。

6 本時の展開 (5 / 5)

(1) ねらい

新潟水俣病被害者に対する差別的な言動に憤りの気持ちを持ち、差別者の立場から差別問題を考えることを通して自分自身の中の差別意識に気づかせる。また、絶対に差別をしないという思いを強くさせる。

(2) 展開

過程と時間	学習内容	◆学習活動 □発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点	☆評価
気づき・学び (20分)	差別をする側の理不尽な心情	<p>◆ 差別者の心中を想像する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 資料にある言葉を言った人は、どうしてそんなことを言ってしまったのでしょうか。その人になったつもりで考えてみましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく、軽い気持ちで言ってしまった。 ・周りの人がみんな言っているから、つられて言ってしまった。 ・自分にうつるかもしれないと思って、怖くて言った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 今、言ってくれたことは、差別をして良い理由になりますか。また、あなたはその言葉を許しますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ならない。その言葉を許せない。 ・みんなが言ったから、仕方なかったのかもしれない。 	<p>○児童から出た意見のひとつひとつについて、それが差別をしても良い理由になるかを問い質す。どんな理由でも差別は絶対にいけないということを強調する。</p> <p>○自分の差別体験を考える際の手がかりとなるように、差別の理由を整理する。</p> <p>○想像した差別者の心の中の思いは、児童自身にもあることを確認し、児童も差別をしてしまう危険があることを伝える。</p>	<p>☆差別的な言動に対して、憤りの気持ちを発表することができたか。(発言)</p>
深まり・実践化 (25分)	自分自身の中の差別意識	<p>◆ 日常生活を振り返り、友だちや周りの人に対して差別的な言動をしてしまった経験を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> みなさんは、自分のこれまでの言動を振り返ってみて、「あれは差別だった」と思うことはありませんか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・マラソン練習を休んだ人に、「ずる休み」と言ってしまった。 ・積極的に意見を言う人に対して、「あいつかっこつけているよな」とひそひそ話をしてしまった。 ・友だちの持病について、からかってしまった。 ・うつる病気ではないのに、近寄らないでと言ってしまった。 	<p>○ひとりひとりが確実に自分を振り返られるように、小グループで発表させる。</p> <p>○話すことが苦手だと思われる児童には、側について支援する。</p>	<p>☆自分自身の中の差別意識を自覚し、自分が差別した体験について振り返ることができたか。(ワークシート、発言)</p>

		<p>自分自身の体験を振り返り、これからの自分はどうしたいかを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく知らないで人を悪く言うような偏見の差別はしない。 ・からかいや軽い気持ちで差別をしない。 ・周りの人に流されて差別をするようなことはしない。 	<p>○自分はこれからどうしていくかを発表させる。</p>	<p>☆差別をしないという思いを強くすることができたか。（発言）</p>
--	--	--	-------------------------------	--------------------------------------